

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105610
法人名	株式会社 アクト企画
事業所名	グループホーム我が家
所在地	松山市鷹子町705-2
自己評価作成日	平成23年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○玄関に手作りのベンチがあり、そこで天気の良い日は日光浴をしている。  
 ○利用者と職員の間が安定しており、笑顔が随所に見られる。  
 ○昔の話を聞いたり、新聞について色んな話をしたりと、のんびりとした時間を大事にしている。  
 ○毎年、遠足ということで、遠出をしている。昨年は、伊予の小京都・大洲で楽しかったです。  
 ○家庭菜園があり、季節のものを育てている。庭で取れたものをすぐに食事に使ったりしているので新鮮。  
 ○地域の踊りの先生との交流。  
 ○面会に来られた方からの繋がりでの交流の広がり。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街に立地しており、管理者は地域や近隣との関わりについて日々模索しながら運営に努めている。職員は、利用者一人ひとりの気持ちに寄り添ったケアを目指し、地域包括支援センター等の研修会に積極的に参加することで質の向上に努めている。利用者は、食後にリビングで趣味のカラオケを歌う等ゆったりとした生活をしている。ケアにおいては、ホーム独自で作成した「気づきシート」や一目で分かる介護計画の表を作成し、常に利用者中心のケアを大切にしている。ホーム内に飾られている飾りや写真、カラオケ機器など家族や近隣の方からの寄贈も多く、ホームと地域の関わりが徐々に深まり、ホームの運営に良い形で反映されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム我が家

(ユニット名) ユニット1

記入者(管理者)

氏名 中山 多希史

評価完了日 平成 23 年 2 月 17 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「地域住民の一員であることが実感できるような生活を支援します」という理念をつくっている。常に意識できるように皆の目の届くところに貼ってあり実践できるように心がけている。また、定期的に理念の実践の意味等を考える機会を設けている。</p> <p>(外部評価) 理念は、ホーム開設時に管理者と職員全員で話し合い考えたものである。月1回の職員会議以外でも、実践の中でお互いに声をかけ合いながら、常に理念を念頭に置き日々のケアに取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 町内会に加入している。地域の文化祭や行事等に参加し地域の一員になれるよう努めている。また、盆踊り会に向けて、地域の方に来て頂き、教えてもらったり、舞踊等を披露して頂いたり、交流を深めている。しかし、日常的に地域とのつきあいが出来ているかどうかとなるとまだまだである。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入し定期的に地域の情報を得ている。地域の文化祭等の行事に参加したり、ホームに舞踊講師を招くなど、地域との関係性を築く努力をしている。また、昨年より地区のグループホームや地域包括支援センターと協力して小学校の認知症サポーター講座を開催し、地域で認知症の理解の推進を図っている。</p>	ホーム周辺はマンション等が多く定住者が比較的少ないが、ホーム便りを定期的に配布しホームの取り組みを地域住民に理解してもらい、地域との関わりが一層深まることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の方々へ実践を通じて積み上げている知識を活かす場面が作れていないのが現状である。運営推進会議を通じて、地域貢献についての議題等も出ているので今後も継続して課題の意識を持って取り組んでいきたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ケアの取組みや現在の状況等を報告し、話し合い、そこからの意見をサービスへ反映させるよう努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議には民生委員や地区の自治会長、市や地域包括支援センターの職員、家族などに参加してもらい、意見交換を活発に行っている。運営推進会議で出された意見を職員会議で取り上げる等、サービス向上に活かせるように努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 地域包括支援センターなどが主催する会等に参加したり他の研修会等にも参加している。市の担当者とは、困ったとき等の対応を相談したりして協力関係を築くように取り組んでいる。	
			(外部評価) 運営推進会議や日頃の相談や報告を通して、ホームに対する意見を求め、気軽に相談できる関係づくりに努めている。また、定期的に地域包括支援センターの研修にも参加し、その中で利用者の暮らしぶりやホームの実情を具体的に伝える等して良好な関係を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の施錠はないが、ユニットを仕切るドアに暗証番号式ロックがある。課題として、開錠時間を長くするなどの工夫をしているところであるが、まだまだ不十分。	
			(外部評価) 玄関の施錠はしないが、家族の要望や安全を考え、ユニットを仕切る扉は施錠している。利用者の自由を尊重するために、運営推進会議等で家族の理解を求め、開錠する時間を増やす努力をしている。また、利用者が外出を希望した時は散歩に誘う等し、利用者の自由な生活を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 「高齢者虐待を考える」をもとに言葉の虐待がないか等話し合った。定期的に、心理的虐待や言葉の虐待等がないか話し合い、見過ごさないように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 日常生活自立支援事業や成年後見制度があるということについては職員で理解しているが、詳しい理解や活用にまで至っていないのが現状である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項説明書や契約書などをとに詳しく説明し、同意を得ている。書面以外の気になる事等も聞き、不安がないように配慮している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 要望や意見は、運営推進会議等で聞けるようにしている。また、管理者や職員が面会時などに気軽に聞けるような関係作りを行っている。そして、それを出来る限り実現するようにしている。 (外部評価) 管理者が2か月に1回は必ず家族と連絡を取り、利用者のホームでの様子を伝えると共に、意見や要望を聴くようにしている。また、面会時や行事等の際には家族が話しやすいよう雰囲気づくりに努めている。	利用者のホームでの様子を記した手紙を定期的に家族へ送付しているが、運営推進会議の議事録も送付したり、ホームの取り組みを報告するなど、家族が要望や意見を出しやすい環境づくりのさらなる取組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回の職員会で意見交換をしている。その他、柔軟に意見を言いやすい関係作り、雰囲気作りをしている。また、定期的に管理者が全員の個人面談をして話等聞く機会を設けている。  (外部評価) 管理者は年1回及び必要時に個別面談を実施し、職員の意見をじっくり聴く機会を設けている。日頃から管理者の考えを伝えて、職員が何でも言いやすい関係を築く努力をしている。また、月1回母体法人の幹部がホームを訪れたり、週1回母体法人の会議に参加する等、職員の意見を運営に反映させるための環境が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、管理者や職員がやりがいを持って働けるように、特別休暇を設けたり、参加したい研修等があれば参加できるように職場環境・条件の整備に努めている。また、松山市勤労者福祉サービスに入会したり、勤続年数によって奨励賞などを定めており、向上心を持てるように配慮している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者は、管理者や職員のケアを向上させる為に、参加したい研修等があれば参加できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会や地域包括支援センター、ケアプラン研究会などが主催する研修会や交流会に参加し、交流を図る取り組みをしている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前訪問にて本人から直接話を聞き、不安や求めている事等を受け止めるようにしている。また、スムーズに利用していただくために、入居までに他の利用者さんとの交流等も出来るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族と話し合い、不安や求めている事を把握し、入居後も定期的に話し合い、不安の軽減や要望に対応できるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に本人と家族の話を聞き、必要なサービスへ繋ぐように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 雰囲気や大事にしておき、利用者と時間を共に過ごせる工夫をしている。その中で、喜怒哀楽を共にし、笑いあり、涙ありの当たり前の生活を支援している。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族と小さな喜び、悲しみでも共有できるように報告している。その中でより良い関係を築いていけるよう取り組んでいる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 以前利用していたデイサービスや、なじみの場所等へ行けるように支援している。また、馴染みの人たちが訪ねて来やすい様に配慮している。馴染みの人に手紙を出したり、電話をかけたりの工夫もしている。  (外部評価) 利用者が入居前に大切にしていた場所や人等について、家族から話を聴いたり、日常の会話から汲み取ったりしながら把握する努力をしている。入居で途絶えてしまった知人との連絡を取り手紙のやり取りを支援したり、以前通っていた美容室へ行く等、入居前の馴染みの関係を継続させる支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を理解し、関わりあえるよう支援している。職員が利用者の関係を上手に取り持つ事により良好な関係作りが出来るように心がけている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 関わりを必要としている家族や利用者がいれば支援している。また、移り住む事があればケアの工夫や注意点等のノウハウは惜しみなく伝えるようにしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 散歩や買い物等の希望に対応出来るように支援している。センター方式や職員会等で希望や思いの把握に努めている。  (外部評価) 日常の会話や家族から得た情報などを、ホーム独自で作成した「気づきシート」に記入することで、利用者の思いを職員全員で共有し、必要に応じて職員会議等で検討する等支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族の面会時に話を聞いたり、本人との会話の中から把握に努めている。また、センター方式シートを活用し、生活歴や馴染みの暮らし方等の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 「出来ない」「こう言うだろう」「こうするだろう」と決め付けるのではなく本人の残存能力を引き出す努力、又、日々異なる心身状態について職員間で共有、状況に応じたケアに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族の希望や想いも含め、利用者本位の介護計画になるように努めているが、十分ではない。	
			(外部評価) 利用者の思いや意向は日頃の関わりの中から把握し、家族からは面会時や電話を通じて聴取し、介護計画に反映させている。利用者や家族の率直な思いを取り入れた分かりやすい介護計画になっている。カンファレンスで職員全員が話し合い、その人らしく暮らすための介護計画になるよう努めている。	介護計画に家族の要望等を反映させるためにも、できる限りカンファレンスへの参加を家族にお願いし、より一層充実した介護計画が作成されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケアのアプローチ、結果、気づき、工夫についてありのままの言葉で上手くいかなかった場合も記述・記録として残し、表現しきれない微妙な言動については申し送りで情報の共有、後のケアに繋げている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 買い物や通院等本人や家族のその時々々の要望に応えられるよう、柔軟に対応している。囲碁のボランティアの方に来てもらったり、多機能になるように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアによる踊り、演奏、囲碁等や、中学生職場体験学習の受け入れ、地域の公民館での行事や運動会等に参加し、豊かな暮らしになるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人及び家族の意向にそえられるように支援してい る。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族が安心して馴染みの医療機関を受診でき るよう受診前には入居中の様子を文書にしたものを手 渡し、受診後は結果を家族に確認し職員全員が共有で きるようにしている。基本的には家族による同行受診 となっているが、できない場合はホームで対応し、電 話等で家族に報告するようにしている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 毎日バイタルチェックし記録に残し体調変化、異常に気付いた ら早い段階で医療機関に相談、受診し重症化を予防に 努めている。また、医療連携している看護師にも報告 している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院した時も安心して過ごせるように、介護サマリー と共に本人の性格や行動、要望を伝えるようにしてい る。病院にも定期的に顔を出し、安心していただける ようにしている。また、早期退院に向けて病院関係者 と話し合い調整している。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化した場合や終末期のあり方については、利用者 や家族との話し合いが十分に出来ているとはいえない。</p> <p>(外部評価) 終末期をホームで過ごす予定の利用者がおり、それ に向けて主治医と連携を取りながら、家族と繰り返し話 し合いを行っている。また、勉強会を開催し、看取り に対する職員間の共通認識もできており、ホーム全体 で取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時のマニュアルを作っている。定期的に事故発生時などの対応を話し合っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練等は行っているが、地震や水害等については、まだまだ不十分である。  (外部評価) 年2回の自主訓練と消防訓練を実施しているが、それ以外にも運営推進会議の中で議題として取り上げ話し合いを行うことで、全職員が防災に関して常に意識するよう努めている。また、町内会でホームも含めた災害対策訓練を実施する予定がある。	避難訓練や運営推進会議を通して職員に対して常に防災意識を高めているが、地域住民にホームの実情を知ってもらい、有事の際には地域住民との協力体制を構築するための取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシーや誇りを保てるように、言葉がけには注意するように努めている。定期的に配慮した声かけになっているかなどの確認等をするようにしている。  (外部評価) 声かけやケアについては、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮しながら対応している。また、「気づきシート」や職員会議等を通して利用者について気がついたことを随時共有できるようにし、職員一人ひとりがケアにおいて「その人らしさ」を尊重できるよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) わかりにくい場合も希望の表出を汲み取る努力をしている。納得した生活を送って頂く為、自己決定の場面を作り支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースに合わせて、希望に沿った支援ができるように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 個々の好みに合わせたおしゃれの支援をしている。自分で洋服を決めていただいたりしている。理美容も本人の望む店に行けるように支援している。お化粧を希望される方には、お手伝いする事もある。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事作りに何かしら関わられるように支援しているが不十分である。食事作りに関わったり、後片付けを一緒にする事により役割や楽しみが共有できるように努めている。  (外部評価) 献立は、職員が栄養面のバランスを考えながら立てている。利用者と買い出しに行った際に、旬の物等があればメニューに加えたり、柔軟に変更している。準備や後片付けを利用者個々の力を活かすことで、利用者自身の自信や喜びに繋げるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) おかずを刻んだり、魚をほぐしたりご飯の量や、水分量等、各々に合わせた支援をしている。また、熱々の飲み物が好きな方には、熱々を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者個々の能力・習慣に合わせた声かけ、見守り、介助をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンをつかみ、気持ちよく排泄できるように支援している。	
			(外部評価) 排泄パターンのチェックを行い、利用者一人ひとりに合った排泄リズムを把握しトイレ誘導を行っている。職員会議や「気づきシート」において共有し排泄介助に取り組んでいる。また、自尊心を損ねないような声かけや対応を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の方には腹部マッサージをしたり、青汁を飲んで頂いたり、水分を摂る様にしたりと便秘予防・自然排便が出来るように支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々の好みや体調に合わせて入浴している。	
			(外部評価) 希望があれば毎日の入浴は可能であるが、利用者の負担等も考えて、2日に1回希望の時間帯で入浴できるよう支援している。入浴の苦手な利用者については、家族の協力を得たり、声かけを工夫する等、見守りながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々のリズムや体調に気をつけて安心して休息したり眠れるようにしている。又、夜間安眠に繋がるよう日中の支援、認知症症状に合わせて不安を取り除き、気持ちよく眠れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの服薬資料を作っており職員が確認できるようにしている。また、誤薬防止の為、声に出して名前の確認を行うようにしている。本人の状態により服薬調整等も行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 出来る限りの手伝い等、進んでして下さいよう声かけの支援を行っている。役に立ったと喜びを感じて頂けるように心がけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の希望に沿って、買い物や散歩等戸外に出かけられるよう柔軟に対応するように努めている。以前利用していた施設などを訪れたりし、満足していただけるように支援している。	
			(外部評価) ホーム全体で年3回、お弁当持参して花見や遠足等の外出行事を取り入れている。日常的には、ユニットごとや個別に道後で珈琲を楽しんだり、動物園に行く等、利用者の希望を取り入れながら楽しみの1つになるように取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの能力に応じて、お金を使えるように支援している。また金銭を管理する事の大切さや買い物の楽しみを感じて頂けるように努めている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 個々の希望に合わせて、自由に手紙や電話が出来るように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感を出す壁飾りや写真等で居心地の良い空間を作っている。居室の家具や置物等にもその人らしくなるように工夫している。	
			(外部評価) 共有空間には窓から明るい日差しが差し込み、カラオケや作業をしたり、食事の下ごしらえをする等、各々が自由に過ごせる空間となっている。また、畳の間には季節の飾りが飾られたり、コタツを置く等、季節感を味わうことができるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファやベンチ、コタツ等を設置しておりそれぞれが思い思いに過ごせるように工夫している。また、配席なども工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には本人が使い慣れた家具等を自由に持ち込んで頂き配置に関しても本人、家族と相談しながら行い居心地良く過ごせるように支援しているがまだまだである。	
			(外部評価) 居室には備え付けのベッドやクローゼットがある。家族に働きかけ、タンス等の使い慣れた馴染みの物を持ち込んでもらい、その人らしい生活ができるよう工夫している。また、利用者の趣味の物や家族の写真等を飾ったりする等、落ち着ける空間づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者一人ひとりの認識力を把握し環境づくりをするよう努めている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105610
法人名	株式会社 アクト企画
事業所名	グループホーム我が家
所在地	松山市鷹子町705-2
自己評価作成日	H23年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○玄関に手作りのベンチがあり、そこで天気の良い日は日光浴をしている。  
 ○利用者と職員の間が安定しており、笑顔が随所に見られる。  
 ○昔の話を聞いたり、新聞について色んな話をしたりと、のんびりとした時間を大事にしている。  
 ○毎年、遠足ということで、遠出をしている。昨年は、伊予の小京都・大洲で楽しかったです。  
 ○家庭菜園があり、季節のものを育てている。庭で取れたものをすぐに食事に使ったりしているので新鮮。  
 ○地域の踊りの先生との交流。  
 ○面会に来られた方からの繋がりでの交流の広がり。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街に立地しており、管理者は地域や近隣との関わりについて日々模索しながら運営に努めている。職員は、利用者一人ひとりの気持ちに寄り添ったケアを目指し、地域包括支援センター等の研修会に積極的に参加することで質の向上に努めている。利用者は、食後にリビングで趣味のカラオケを歌う等ゆったりとした生活をしている。ケアにおいては、ホーム独自で作成した「気づきシート」や一目で分かる介護計画の表を作成し、常に利用者中心のケアを大切にしている。ホーム内に飾られている飾りや写真、カラオケ機器など家族や近隣の方からの寄贈も多く、ホームと地域の関わりが徐々に深まり、ホームの運営に良い形で反映されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム我が家

(ユニット名) ユニット2

記入者(管理者)

氏名 中山 多希史

評価完了日 平成 23 年 2 月 17 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「地域住民の一員であることが実感できるような生活を支援します」という理念をつくっている。常に意識できるように皆の目の届くところに貼ってあり実践できるように心がけている。また、定期的に理念の実践の意味等を考える機会を設けている。理念は様々な問題に直面した時に判断し行動するものと認識し実践に繋げている。</p> <p>(外部評価) 理念は、ホーム開設時に管理者と職員全員で話し合い考えたものである。月1回の職員会議以外でも、実践の中でお互いに声をかけ合いながら、常に理念を念頭に置き日々のケアに取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 町内会に加入している。地域の文化祭や行事等に参加し地域の一員になれるよう努めている。また、盆踊り会に向けて、地域の方に来て頂き、教えてもらったり、舞踊等を披露して頂いたり、交流を深めている。しかし、日常的に地域とのつきあいが出来ているかどうかとなるとまだまだである。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入し定期的に地域の情報を得ている。地域の文化祭等の行事に参加したり、ホームに舞踊講師を招くなど、地域との関係性を築く努力をしている。また、昨年より地区のグループホームや地域包括支援センターと協力して小学校の認知症サポーター講座を開催し、地域で認知症の理解の推進を図っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の方々へ実践を通じて積み上げている知識を活かす場面が作れていないのが現状である。運営推進会議を通じて、地域貢献についての議題等も出ているので今後も継続して課題の意識を持って取り組んでいきたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ケアの取組みや現在の状況等を報告し、話し合い、そこからの意見をサービスへ反映させるよう努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議には民生委員や地区の自治会長、市や地域包括支援センターの職員、家族などに参加してもらい、意見交換を活発に行っている。運営推進会議で出された意見を職員会議で取り上げる等、サービス向上に活かせるように努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 地域包括支援センターなどが主催する会等に参加したり他の研修会等にも参加している。市の担当者とは、困ったとき等の対応を相談したりして協力関係を築くように取り組んでいる。	
			(外部評価) 運営推進会議や日頃の相談や報告を通して、ホームに対する意見を求め、気軽に相談できる関係づくりに努めている。また、定期的に地域包括支援センターの研修にも参加し、その中で利用者の暮らしぶりやホームの実情を具体的に伝える等して良好な関係を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の施錠はないが、ユニットを仕切るドアに暗証番号式ロックがある。課題として、開錠時間を長くするなどの工夫をしているところであるが、まだまだ不十分。	
			(外部評価) 玄関の施錠はしないが、家族の要望や安全を考え、ユニットを仕切る扉は施錠している。利用者の自由を尊重するために、運営推進会議等で家族の理解を求め、開錠する時間を増やす努力をしている。また、利用者が外出を希望した時は散歩に誘う等し、利用者の自由な生活を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 「高齢者虐待を考える」をもとに言葉の虐待がないか等話し合った。定期的に、心理的虐待や言葉の虐待等がないか話し合い、見過ごさないように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 日常生活自立支援事業や成年後見制度があるということについては職員で理解しているが、詳しい理解や活用にまで至っていないのが現状である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項説明書や契約書などをとに詳しく説明し、同意を得ている。書面以外の気になる事等も聞き、不安がないように配慮している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 要望や意見は、運営推進会議等で聞けるようにしている。また、管理者や職員が面会時などに気軽に聞けるような関係作りを行っている。そして、それを出来る限り実現するようにしている。 (外部評価) 管理者が2か月に1回は必ず家族と連絡を取り、利用者のホームでの様子を伝えると共に、意見や要望を聴くようにしている。また、面会時や行事等の際には家族が話しやすいよう雰囲気づくりに努めている。	利用者のホームでの様子を記した手紙を定期的に家族へ送付しているが、運営推進会議の議事録も送付したり、ホームの取り組みを報告するなど、家族が要望や意見を出しやすい環境づくりのさらなる取組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回の職員会で意見交換をしている。その他、柔軟に意見を言いやすい関係作り、雰囲気作りをしている。また、定期的に管理者が全員の個人面談をして話等聞く機会を設けている。  (外部評価) 管理者は年1回及び必要時に個別面談を実施し、職員の意見をじっくり聴く機会を設けている。日頃から管理者の考えを伝えて、職員が何でも言いやすい関係を築く努力をしている。また、月1回母体法人の幹部がホームを訪れたり、週1回母体法人の会議に参加する等、職員の意見を運営に反映させるための環境が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、管理者や職員がやりがいを持って働けるように、特別休暇を設けたり、参加したい研修等があれば参加できるように職場環境・条件の整備に努めている。また、松山市勤労者福祉サービスに入会したり、勤続年数によって奨励賞などを定めており、向上心を持てるように配慮している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者は、管理者や職員のケアを向上させる為に、参加したい研修等があれば参加できるようにしている。また、発表の機会を設ける事により学びの質を高めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会や地域包括支援センター、ケアプラン研究会などが主催する研修会や交流会に参加し、交流を図る取り組みをしている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前訪問にて本人から直接話を聞き、不安や求めている事等を受け止めるようにしている。また、スムーズに利用していただくために、入居までに他の利用者さんとの交流等も出来るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族と話し合い、不安や求めている事を把握し、入居後も定期的に話し合い、不安の軽減や要望に対応できるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に本人と家族の話を聞き、必要なサービスへ繋ぐように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人を人生の先輩として敬い色々な事を教えて頂くという思いを忘れないようにしている。また、雰囲気や大事にしており、利用者と時間を共に過ごせる工夫をしている。その中で、喜怒哀楽を共にし、笑いあり、涙ありの当たり前の生活を支援している。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族のこだわり、苦しみ等も受け止められるよう心がけている。また、家族と小さな喜び、悲しみでも共有できるように報告している。その中でより良い関係を築いていけるよう取り組んでいる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 以前利用していたデイサービスや、なじみの場所等へ行けるように支援している。また、馴染みの人たちが訪ねて来やすい様に配慮している。馴染みの人に手紙を出したり、電話をかけたりの工夫もしている。  (外部評価) 利用者が入居前に大切にしていた場所や人等について、家族から話を聴いたり、日常の会話から汲み取ったりしながら把握する努力をしている。入居で途絶えてしまった知人との連絡を取り手紙のやり取りを支援したり、以前通っていた美容室へ行く等、入居前の馴染みの関係を継続させる支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を理解し、関わりあえるよう支援している。職員が利用者の関係を上手に取り持つ事により良好な関係作りが出来るように心がけている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 関わりを必要としている家族や利用者がいれば支援している。また、移り住む事があればケアの工夫や注意点等のノウハウは惜しみなく伝えるようにしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 散歩や買い物等の希望に対応出来るように支援している。センター方式や職員会等で希望や想いの把握に努めている。  (外部評価) 日常の会話や家族から得た情報などを、ホーム独自で作成した「気づきシート」に記入することで、利用者の思いを職員全員で共有し、必要に応じて職員会議等で検討する等支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族の面会時に話を聞いたり、本人との会話の中から把握に努めている。また、センター方式シートを活用し、生活歴や馴染みの暮らし方等の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 「出来ない」「こう言うだろう」「こうするだろう」と決め付けるのではなく本人の残存能力を引き出す努力、又、日々異なる心身状態について職員間で共有、状況に応じたケアに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族の希望や想いも含め、利用者本位の介護計画になるように努めているが、十分ではない。	
			(外部評価) 利用者の思いや意向は日頃の関わりの中から把握し、家族からは面会時や電話を通じて聴取し、介護計画に反映させている。利用者や家族の率直な思いを取り入れた分かりやすい介護計画になっている。カンファレンスで職員全員が話し合い、その人らしく暮らすための介護計画になるよう努めている。	介護計画に家族の要望等を反映させるためにも、できる限りカンファレンスへの参加を家族にお願いし、より一層充実した介護計画が作成されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケアのアプローチ、結果、気づき、工夫についてありのままの言葉で上手くいかなかった場合も記述・記録として残し、表現しきれない微妙な言動については申し送りで情報の共有、後のケアに繋げている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 買い物や通院等本人や家族のその時々々の要望に応えられるよう、柔軟に対応している。囲碁のボランティアの方に来てもらったり、多機能になるように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアによる踊り、演奏、囲碁等や、中学生職場体験学習の受け入れ、地域の公民館での行事や運動会等に参加し、豊かな暮らしになるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人及び家族の意向にそえられるように支援してい る。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族が安心して馴染みの医療機関を受診でき るよう受診前には入居中の様子を文書にしたものを手 渡し、受診後は結果を家族に確認し職員全員が共有で きるようにしている。基本的には家族による同行受診 となっているが、できない場合はホームで対応し、電 話等で家族に報告するようにしている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 毎日バイタルチェックし記録に残し体調変化、異常に気付いた ら早い段階で医療機関に相談、受診し重症化を予防に 努めている。また、医療連携している看護師にも報告 している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院した時も安心して過ごせるように、介護サマリー と共に本人の性格や行動、要望を伝えるようにしてい る。病院にも定期的に顔を出し、安心していただける ようにしている。また、早期退院に向けて病院関係者 と話し合い調整している。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化した場合や終末期のあり方については、利用者 や家族との話し合いが十分に出来ているとはいえない。</p> <p>(外部評価) 終末期をホームで過ごす予定の利用者がおり、それ に向けて主治医と連携を取りながら、家族と繰り返し話 し合いを行っている。また、勉強会を開催し、看取り に対する職員間の共通認識もできており、ホーム全体 で取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時のマニュアルを作っている。定期的に事故発生時などの対応を話し合っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練等は行っているが、地震や水害等については、まだまだ不十分である。  (外部評価) 年2回の自主訓練と消防訓練を実施しているが、それ以外にも運営推進会議の中で議題として取り上げ話し合いを行うことで、全職員が防災に関して常に意識するよう努めている。また、町内会でホームも含めた災害対策訓練を実施する予定がある。	避難訓練や運営推進会議を通して職員に対して常に防災意識を高めているが、地域住民にホームの実情を知ってもらい、有事の際には地域住民との協力体制を構築するための取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシーや誇りを保てるように、言葉がけには注意するように努めている。定期的に配慮した声かけになっているかなどの確認等をするようにしている。  (外部評価) 声かけやケアについては、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮しながら対応している。また、「気づきシート」や職員会議等を通して利用者について気がついたことを随時共有できるようにし、職員一人ひとりがケアにおいて「その人らしさ」を尊重できるよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) わかりにくい場合も希望の表出を汲み取る努力をしている。納得した生活を送って頂く為、自己決定の場面を作り支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ドライブや買い物等ご本人が望んでいる時に対応できるよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 個々の好みに合わせたおしゃれの支援をしている。ご自分で洋服を決めていただいたりしている。理美容も本人の望む店に行けるように支援している。お化粧を希望される方には、お手伝いする事もある。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事作りに何かしら関わられるように支援しているが不十分である。食事作りに関わったり、後片付けを一緒にする事により役割や楽しみが共有できるように努めている。  (外部評価) 献立は、職員が栄養面のバランスを考えながら立てている。利用者と一緒に買い出しに行った際に、旬の物等があればメニューに加えたり、柔軟に変更している。準備や後片付けを利用者個々の力を活かすことで、利用者自身の自信や喜びに繋げるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) おかずを刻んだり、魚をほぐしたりご飯の量や、水分量等、各々に合わせた支援をしている。また、熱々の飲み物が好きな方には、熱々を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者個々の能力・習慣に合わせた声かけ、見守り、介助をしている。また、ポリデントでの洗浄徹底もしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンをつかみ、気持ちよく排泄できるように支援している。	
			(外部評価) 排泄パターンのチェックを行い、利用者一人ひとりに合った排泄リズムを把握しトイレ誘導を行っている。職員会議や「気づきシート」において共有し排泄介助に取り組んでいる。また、自尊心を損ねないような声かけや対応を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の方には腹部マッサージをしたり、青汁を飲んで頂いたり、水分を摂る様にしたりと便秘予防・自然排便が出来るように支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々の好みや体調に合わせて入浴出来るように努めている。	
			(外部評価) 希望があれば毎日の入浴は可能であるが、利用者の負担等も考えて、2日に1回希望の時間帯で入浴できるように支援している。入浴の苦手な利用者については、家族の協力を得たり、声かけを工夫する等、見守りながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々のリズムや体調に気をつけて安心して休息したり眠れるようにしている。又、夜間安眠に繋がるよう日中の支援、認知症症状に合わせて不安を取り除き、気持ちよく眠れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの服薬資料を作っており職員が確認できるようにしている。また、誤薬防止の為、声に出して名前の確認を行うようにしている。本人の状態により服薬調整等も行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 出来る限りの手伝い等、進んでして下さいよう声かけの支援を行っている。役に立ったと喜びを感じて頂けるように心がけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の希望に沿って、買い物や散歩等戸外に出かけられるよう柔軟に対応するように努めている。以前利用していた施設などを訪れたりし、満足していただけるように支援している。	
			(外部評価) ホーム全体で年3回、お弁当持参して花見や遠足等の外出行事を取り入れている。日常的には、ユニットごとや個別に道後で珈琲を楽しんだり、動物園に行く等、利用者の希望を取り入れながら楽しみの1つになるように取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの能力に応じて、お金を使えるように支援している。また金銭を管理する事の大切さや買い物の楽しみを感じて頂けるように努めている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 個々の希望に合わせて、自由に手紙や電話が出来るように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感を出す壁飾りや写真等で居心地の良い空間を作っている。居室の家具や置物等にもその人らしくなるように工夫している。	
			(外部評価) 共有空間には窓から明るい日差しが差し込み、カラオケや作業をしたり、食事の下ごしらえをする等、各々が自由に過ごせる空間となっている。また、畳の間には季節の飾りが飾られたり、コタツを置く等、季節感を味わうことができるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファやベンチ、コタツ等を設置しておりそれぞれが思い思いに過ごせるように工夫している。また、配席なども工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には本人が使い慣れた家具等を自由に持ち込んで頂き配置に関しても本人、家族と相談しながら行い居心地良く過ごせるように支援しているがまだまだである。	
			(外部評価) 居室には備え付けのベッドやクローゼットがある。家族に働きかけ、タンス等の使い慣れた馴染みの物を持ち込んでもらい、その人らしい生活ができるよう工夫している。また、利用者の趣味の物や家族の写真等を飾ったりする等、落ち着ける空間づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者一人ひとりの認識力を把握し環境づくりをするよう努めている。また、各居室には表札があり、本人の希望にて色分けした暖簾をかけ、わかるように工夫している。	